



町の中心部で人が住むのはこの2つの建物だけ

大槌湾に面した大槌町の中心部は津波で壊滅的な被害を出し、流

失を免れて今も人が住ル寿をカリタスジャパ

人は人によって癒やされる

再び岩手県大槌町へ⑩



巡礼の道

353

藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

ンがボランティアペー
スとして借り受け、
我々も二回ともここ
に宿泊した。三階の窓下
まで津波で海水につか
たというから、いかにひ
どかつたかがわかる。
右側の建物は米屋だ
つたが、一階は今も使わ
れておらず、二階は「夢
宇民(ムーミン)」という
喫茶店。マスターと母親
とで経営、客はボランテ
ィアが中心。
私はほとんどコーヒ
ーは飲まないが、利用
するのもボランティア
の仕事の一つと思い、
ボランティア活動のあ
と、午後五時半から始
まる全ボランティアに
よる「わかち合い」ま
での空いた時間に夢宇
民に行く。

妻は学童保育で久し
ぶりに子供の相手をし
て疲れたのだろう。ピル
ッペン

の二階まで階段を登る
のは無理なので、部屋で
仮眠させ、一人で行く。
温厚なマスターから
津波の話聞きながら
ココアを飲む。お金を
払う時、掲載のワッペ
ンをもらう。私たちの
年代の人なら一九六四
年(S39)から五年間、
NHK総合テレビで放
送された人形劇「ひよ
つこりひょうたん島」
を覚えている人も多い
と思うが、全国には
四、五カ所、ここが「ひ
ょうたん島」といわれ
る島がある。大槌湾に
浮かぶ「蓬莱島(ほう
らいじま)」こそが、ひ
ょうたん島の舞台にな
ったところだという。
ワッペンの島だ。
原作者の井上ひさし

学童保育の子供に編み物をならう妻



ひよつこりひょうたん島を
テーマにしたワッペン

今では灯台の赤が鮮やか
である。

ひょうたん島を
あしらったワッペンに
ある「だけど僕はは
くじけない」は人形
劇で毎回歌われた
詞の一節だ。

とここで町の中
心部の復興が一向
に進まないのは、
地面が沈下し、中
心部一帯の盛り土
をしなければ建物
が建てられないか
らだ。その盛り土
工事が十一月ごろ
から始まり、ビジ
ネスホテル寿や夢
宇民の建物は一階
部分を盛り土で埋
めるらしい。

は東北に
縁の人で
あり、こ
の蓬莱島
が舞台の
ように思
える。昨
冬、初め
て大槌を
訪れた
時、蓬莱
島の灯台
が復旧し
たばかり
だった。

を感じ、長期間接して
あげたかったという。
また、人が生きていく
のに必要なのは物や金
ではなく、人と人との
つながり。人は人によ
って癒やされたり、勇
気づけられたりするも
のであると実感したと
いう。全く同感だ。
今の世の中、人と人
とのつながり、連帯感
や共同体意識が希薄に
なっている。被災地で
それを感ずることが悲
しい。